

脳科学研究所 TAMAGAWA InFORUM2009開催

梶川祥世 ●リベラルアーツ学部助教



慶應義塾大学大学院・皆川泰代
准教授による講演「音韻の獲得・
習得とその脳内基盤」



フェリス女学院大
学・清水基久非常勤
講師は日本語教育の
現場について語った

玉川大学脳科学研究所(所長:丹治順)の言語情報研究センターは、研究・教育活動の一環として、乳幼児が言葉をどのように学習していくのか、その発達について考えながら、言語教育への応用を議論する「TAMAGAWA InFORUM2009」を一月二〇日、大学九号館にて開催しました。

本フォーラムは、研究者や教育関係者だけでなく、一般の方も対象にした研究交流の場として、約一〇〇名の方に参加いただきました。

第八回となる本フォーラムでは、「日本語の獲得と教育」をテーマに、脳科学と外国語教育の視点から講演が行われました。

講演一人目の皆川泰代氏(慶應義



脳科学研究所言語情報研究センター長・佐藤久美子教授による開会の挨拶

韓国人は、回答に長く時間がかかっていたのです。

さらに、これらの音を聞いているときの脳活動を計測したところ、日本人では左脳の言語野に活動が集中していましたが、韓国人の上級日本語学習者では両方の脳で広範囲に活動がみられました。これは、日本人と同程度に正しく音の聞き分けを行うために、韓国人はさまざまな神経回路を使って処理していることを示しています。

では大人になってから、第二言語を学習し始めても、とつてい母語話者になくはないのでしょうか。

塾大学大学院特別研究准教授)には、

乳児による母語獲得と第二言語学習者の音韻知覚に関する脳科学について、最新の研究成果をお話しいただきました。誕生して間もない赤ちゃんには、すべての言語に含まれる音のほとんどを聞き分ける能力が備わっています。この能力は、どのような言語環境で育っても母語(第一言

「いいえ!可能性はあります」と皆川氏。アメリカでの研究によると、母親が赤ちゃんに話しかけるときのように、ゆっくりと大きめに発音した音声を使って、非母語話者の聞き取りを訓練した結果、訓練前に比べて訓練後の脳活動が母語話者のパターンに少し近づいていることがわかったそうです。

* * *

二人目の講演者である清水基久氏(フェリス女学院大学非常勤講師)は、国際交流基金の文化事業部長として長年、アメリカやジャカルタ、台湾などで日本語を教えてこられました。その豊富な教授経験をもとに、日本語を外国語として教える現場でのさまざまなトピックスを紹介いただきました。

現代の国際社会はグローバル化の時代の時代と言われ、それぞれの地域に存在する固有の民族文化を理解し尊重していくことが求められています。このための有益な手段として、国際文化交流による異文化理解・相互理解が注目されています。とくに現代日本文化の発信・受容に世界中の若者の関心が高まり、日本語学

語)となる言語を身につけられる準備として役に立つものですが、母語に含まれない音を聞き分ける能力は必要がなくなると、成長とともに低下してきます。

たとえば日本人にとって聞き分けが難しい英語の<ɪ/>の区別の能力は、生まれて半年頃までは日本語を母語とする赤ちゃんも英語の赤ちゃんと同じくらいですが、日本語を運用するうえで不要な能力であるために聞き取る能力が低くなってしまふことが知られています。

ここで例に挙げた日本人にとっての<ɪ/>と同様に、日本語を外国語として学習する韓国語話者にとって聞き分けが難しい音があります。それは「角(かど)」と「華道(かどー)」を区別するための短母音(<ɔ/>)と長母音(<o/>)です。

そこで皆川氏は、韓国人の日本語学習者の中でも上級者を選び、短・長母音の聞き分けテストを行いました。するとこのテストの正答率は、母語話者である日本人とほとんど変わりがないものでした。違っていたのは、音を聞いてから回答するまでに要した時間でした。日本人よりも

習が盛んになりました。

現在、外国語としての日本語教育は国内外で広く行われていますが、教育上の問題はさらに多様化しており、日本語教育の現場ではまだ検討しなければならぬ問題が数多く残されているのです。

日本語教育に携わるための知識として、日本語文化を理解するための若者言葉や流行語、「すみません」など意味の曖昧な言葉、「渋い」など外国語訳の難しい言葉、「マンガ」のように英語になつた言葉など、つねに新しい情報を取り入れていく必要があります。

また日本語学習者にとって難しい発音や言葉の意味を知ること、日本人である教師自身にも日本文化を再考する機会となるそうです。

このように、日本語の獲得と教育の問題を一つとっても、文系と理系の学際的な研究融合や、科学的な研究の教育への応用などが、今後ますます必要とされるでしょう。

こうした研究成果を、広く学生や一般の方にも伝えられるようなシンポジウムや講演会を、今後も大いに提供していきたいと思っています。

TAMAGAWA InFORUM2009

日本語の獲得と教育 (2009年11月20日)

◇開会の挨拶 11:00~

玉川大学脳科学研究所言語情報研究センター長
佐藤久美子

◇講演1 11:10~

「音韻の獲得・習得とその脳内基盤」
慶應義塾大学大学院社会学研究科
特別研究准教授
皆川泰代氏

◇講演2 11:50~

「国際文化交流としての日本語教育
——外国における日本語教育のトピックス」
フェリス女学院大学国際交流学部 非常勤講師
元国際交流基金文化事業部長
清水基久氏

◇ディスカッション 12:30~13:00